

事業実績・評価一覧 (経年)

事業実績・評価一覧(経年)

推進 改善 廃止・休止
 事業終了

※()書きは広域化分

事業名	事業目的*	事業内容	指標名	基準値(H21)	実績値(H23)	実績値(H24)	実績値(H25)	実績値(H26)	目標値(H27)	5カ年の総合事業評価		
子育て支援	発達支援事業の広域化	発達の遅れのある乳幼児を支援するため、発達支援事業を広域化し、充実と周知を図る	発達の遅れや障害のある乳幼児への発達支援を広域化し、事業を充実する。	(1) 発達支援事業の認知度 (2) 広域的な相談件数	38.9% 0件	—% (未調査) 0件	—% (未調査) 1件	—% (未調査) 1件	—% (未調査) 1件	【除外】 10件	改善	広域的な事業利用者が少なかったことから、事業周知を継続しつつ、今後は、来所型発達支援に加え、新たに訪問支援の広域化について、検討するとともに、各市町の専門的な研究成果などについて共有化を図り、圏域全体の事業のレベルアップにつなげる。
	育児の広域化	働きやすい子育て環境づくりのため、病児・病後児保育を広域化し、充実と周知を図る	久留米市の病児・病後児保育事業を広域化し、サービスを充実する。	(1) 利用登録者数 (2) 受入可能数	571人 4人/日	1,099人 (11人) 4人/日	1,635人 (21人) 9人/日	2,180人 (55人) 9人/日	2,597人 (55人) 9人/日	2,000人 9人/日	推進	広域利用ができるようになり、利便性が増しているため、継続して実施する。
	相互利用	子育てしやすい環境づくりのため、一時保育事業の相互利用とサービス向上を図る	各市町の保育所で行う一時保育を相互に利用する。	受入施設数	0施設	57施設	59施設	60施設	60施設	63施設	推進	相互利用により利便性が増しているため、継続して実施する。
	地域の相互利用	子育て世代の交流促進・子育ての不安感解消のため、地域子育て支援センターの相互利用とサービス向上を図る	各市町の子育て支援センターを相互に利用する。	他市町住民の相談・イベント利用件数(年間)	0人	770人	1,351人	1,232人	1,579人	1,500人	推進	相互利用により利便性が増しているため、継続して実施する。

	事業名	事業目的*	事業内容	指標名	基準値 (H21)	実績値 (H23)	実績値 (H24)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	目標値 (H27)	5カ年の総合事業評価	
	広域化 ファミリーサポートセンター事業の	子育て世代の負担軽減のため、ファミリーサポート事業を広域化し、充実と利用促進を図る	ファミサポ事業(ボランティア会員による子ども預かり)を広域化し、各市町の住民が相互に利用する。	(1) 会員数 (2) 活動数	805 人 2,496 件	1,080 人 (98 人) 2,683 件 (39 件)	1,205 人 (132 人) 2,433 件 (54 件)	1,337 人 (158 人) 2,042 件 (17 件)	1,400 人 (175 人) 2,069 件 (86 件)	1,500 人 (200 人) 3,000 件 (100 件)	推 進	会員数は徐々に増えているが、それぞれの地域性や他の子育て支援施策との兼ね合いもあり、活動件数は微増である。 今後、援助が必要な家庭が地域での活動の利用につながるよう、各市町による状況分析や潜在需要への働きかけが必要であり、各市町とセンターとの連携強化が求められる。
医 療	の運営支援 広域小児救急センター	良好な小児医療の提供のため、小児救急センターの長期的・安定的な運営を維持する	小児救急センターの運営に対して財政支援等を行う。	平均待ち時間	20 分 以内	24 分	23 分	22 分	26 分	20 分 以内	推 進	医師会、医療機関等の協力により、久留米広域小児急センターを安定的に運営することができた。引き続き、久留米広域小児救急支援事業運営委員会での意見をもとに、センターの安定的な運営に努める。
	救急医療体制等の研究	長期的な救急医療体制の確保のため、救急医療体制の安定的な運営を維持する	救急医療体制の課題等の整理と、病院群輪番制への補助を行う。	二次救急医療体制の維持	久留米地区:15 機関 大川・柳川地区:25 機関	久留米地区:15 機関 大川・柳川地区:24 機関	久留米地区:16 機関 大川・柳川地区:21 機関	久留米地区:17 機関 大川・柳川地区:19 機関	久留米地区:17 機関 大川・柳川地区:17 機関	久留米地区:17 機関 大川・柳川地区:19 機関	推 進	医師会、医療機関の協力により、二次救急医療体制を維持することができた。引き続き、二次救急医療体制の確保に努めるとともに、救急医療に関する啓発活動を行う。

	事業名	事業目的*	事業内容	指標名	基準値 (H21)	実績値 (H23)	実績値 (H24)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	目標値 (H27)	5カ年の総合事業評価	
産業振興	新たな商品開発・製品のブランド化	地域農林水産業の活性化のため、圏域産品のブランド力を高める	商品開発や圏域産品のPRを行い、産品ブランド化に取り組む。	農産品PRイベント来場者数 (農業まつり)	64,600 人	66,000 人	46,000 人	66,000 人	68,000 人	66,000 人	推進	産品のブランド化については、統一ブランドが困難であることから、農業関連イベント等通じ、圏域の商品・農産物について、共同で販売、PRを行い、販売力の強化を図った。今後もこのような取り組みを継続するとともに、圏域ブランド力の更なる向上を図るため、新たな取組みとして、農業の6次産業化・農商工連携による商品開発やアンテナショップを活用した情報発信などの検討を進める。
	物産展の共同開催	地場産品の販売促進のため、地場産品の大都市圏での認知度を高める	東京等の大都市圏で物産展を開催し、圏域の特産品等をPRする。	物産展来客数	7,455 人/日	11,416 人/日	7,000 人/日	6,000 人/日	6,000 人/日	8,500 人/日	推進	各会場において、地場産品のPRに努め、圏域地域の魅力発信に取り組んだ。今後も、来場者数の増加が見込める開催方法の検討を行い、継続的に実施していくことで、地場産品の振興を図っていく。
	広域商談会等の開催	地域経済の活性化のため、地元製造業の取引額を拡大する	地元製造業の取引拡大のため、広域商談会、先進的な工場の見学会等を開催する。	商談会での取引成約件数・金額	16件 17,370 千円	9件 10,978 千円	6件 8,208 千円	20件 5,373 千円	21件 28,682 千円	20件 20,000 千円	推進	地域の中小企業へ商談機会を提供できた。商談会での取引成約件数・金額は、目標値を達成することができた。今後も圏域内のより多くの企業の取引・情報交換の機会提供に取り組むとともに、求人企業の選定を工夫するなどによる就職支援と企業の人材確保に取り組んでいく。

	事業名	事業目的*	事業内容	指標名	基準値 (H21)	実績値 (H23)	実績値 (H24)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	目標値 (H27)	5カ年の総合事業評価	
広域観光振興	魅力ある観光商品づくり	交流人口を拡大するため、体験交流型観光プログラムを商品化する	体験交流型観光プログラムを開発し、「まち旅博覧会」としてPRする。	まち旅博覧会プログラム参加率 (参加者数 / 定員数)	71%	85%	90%	102%	101%	90%	推進	設定した目標値(参加率)を H23 年度に達成し、その後も実績値は伸び続けている。 また、域外からの参加率も H26 年度には 3 年前の状況に回復した。 今後も、継続的な新規プログラムの造成や、域外に向けた情報発信強化に取り組んでいく。
	地域公共交通	公共交通ネットワークの再構築	交通インフラ再構築のため、圏域の交通マスタープランを策定し、交通利用促進の取り組みを進める	久留米広域定住自立圏都市交通基本計画で定めた広域連携による重点的取り組みの事業推進を図る。	(1) 鉄道乗降客数 (2) 路線バス乗降客数	116,580 人/日 (圏域)	117,620 人/日 (圏域)	116,980 人/日 (圏域)	116,676 人/日 (圏域)	117,486 人/日 (圏域)		
		公共交通利用促進事業	交通インフラ維持のため、圏域の公共交通網を維持し、利用を促進する	圏域の公共交通マップ更新及び転入者への配布、ホームページ掲載等により公共交通の利用促進を図る。	9,706,000 人/年 (久留米)	9,828,000 人/年 (久留米)	9,906,000 人/年 (久留米)	9,590,000 人/年 (久留米)	9,774,000 人/年 (久留米)			

	事業名	事業目的*	事業内容	指標名	基準値 (H21)	実績値 (H23)	実績値 (H24)	実績値 (H25)	実績値 (H26)	目標値 (H27)	5カ年の総合事業評価	
ICTインフラ	備 超高速ブロードバンドの整備	情報通信格差の是正のため、圏域の超高速ブロードバンドを整備し、超高速ネットサービス等を開始する	基盤整備を行い、超高速インターネット等サービスを開始する。	加入世帯数 (久留米市旧4町、大木町)	0世帯	3,692世帯	4,035世帯	4,199世帯	4,492世帯	6,500世帯	推 進	超高速ネットワーク網の整備は完了(H22)。 目標値の達成はできなかったが、目標加入世帯達成に向け通信事業者と加入促進活動に関する検討を進めることができた。
	ドの活用 超高速ブロードバンド	地域経済・観光活性化のため、超高速ブロードバンドを活用した各種情報発信を強化する	コミュニティチャンネル等の実施検討、観光・公共交通分野での活用を検討する。	ブロードバンドを活用した新たなサービス数	0件	1件	0件 累計1件	2件 累計3件	2件 累計5件	5件	推 進	新たな情報発信等利活用の検討を進め、FaceBookやケーブルテレビによる文字放送等の発信ができた。
人材確保	人材の確保・育成	環境変化や地域主権に的確に対応するため、人事交流や全体研修を充実し、圏域をマネジメントできる人材を育成する	人事交流、研修会の合同開催、人材確保・育成のノウハウ共有化等に取り組む。	(1) 人事交流・派遣者数(延べ人数) (2) 合同研修会の参加者数(久留米以外の累計)	2人 0人	10人 134人	18人 213人	22人 262人	26人 325人	30人 360人	推 進	人事交流や合同研修等により、圏域全体として、職員の能力向上につながっている。 今後、参加者の声や状況を見ながら、各事業の必要な見直しを行いつつ、取り組み全体としては推進していきたい。